

# スポーツ経験の違いが人の性格に及ぼす影響 - 女子大学生アスリートを対象として -

安江 真衣 (競技スポーツ学科 コーチングコース)  
指導教員 白木 孝尚

キーワード：スポーツ経験，人，性格

## 1. 緒言

林はスポーツ経験が増すということは、それだけスポーツに関わっているということであり、スポーツ経験年数が多い者ほどスポーツが個人的特性に及ぼす機能の影響を強く受けていることを報告した。また津田は、スポーツが自分では気付くことがない性格、もしくは普段あまり意識することのできない「もう一人の自分」に気づかさせてくれることを報告した。これらのことからスポーツが個人的特性や性格・人格に与える影響は大きいと考えられる。

スポーツが性格に何らかの影響を与えていることは明らかになりつつあるが、スポーツ経験の違いが性格に与える影響についてはあまり論議されていない。本研究では、本学の女子学生を対象にアンケート調査を行い、スポーツ経験の違いが性格に及ぼす影響について検討を行った。

## 2. 研究方法

### (1) 調査対象

びわこ成蹊スポーツ大学に通い、スポーツ系のクラブに所属している女子学生 67 名を対象にアンケート調査を実施した。

### (2) 調査方法

普段の性格について：YG 性格検査用紙

競技中の性格について：筆者作成アンケート用紙は、強気敢行型・地道粘り型・粘着型・鈍麻型・自己顕示型の 5 のカテゴリに質問を分類し、各カテゴリにつき 5 問の計 25 問 (5 段階評価) から構成した。

## 3. 結果・考察

本学の女子学生は、小学生時 (61 名)・中学生時 (67 名) からスポーツを実施していたこ

とがわかった。YG 性格検査の普段の性格では、B 型 23 名・A 型 15 名・D 型 13 名・E 型 9 名・C 型 4 名・AB 型 2 名・AC 型 1 名とタイプ別にわかれた。B・D 型の特徴として「気が強い」、「覇気がある」、「力強い」、「頑張りがある」、「真面目」、「黙々と実行する」、「勝負強い」が挙げられた。競技中の性格について因子分析を行った結果、第一因子として、強気敢行型・地道粘り型・粘着型の項目が多く挙げられた。質問項目では、問 8「粘り強く行うことができる」( $r=0.78$ )、問 21「何事にもチャレンジすることができる」( $r=0.68$ )、問 12「努力することができる」( $r=0.63$ )の順で高い値を示した。また、問 1「気が強く負けず嫌いである」( $4.21 \pm 0.86$ )は高い値を示した。小林らは、スポーツマンの性格は、活動的、神経質傾向なく攻撃的である、野心的で精力的であると述べている。林はスポーツ経験年数が多い者ほどスポーツが個人的特性に及ぼす機能の影響を強く受けていることを報告した。本学の女子学生は、小学生時・中学生時からスポーツを実施していたため、先行研究で示されたようにスポーツマンの性格特徴を示したと考えられ、本研究の結果から、普段の性格も競技中の性格も、スポーツ活動の影響を受けている可能性があるを示唆された。

## 4. 引用参考文献

- ・林正邦 (1983) スポーツと人間形成について-スポーツが個人的特性に及ぼす影響について-, 天理大学学報, p 68-90.
- ・辰本頼弘 三村達也 (2007) スポーツ経験の違いがスポーツ意識に及ぼす影響, 関西福祉科学大学紀要第 11 号, p 265-273.
- ・津田忠雄 (2003) スポーツ選手の二面性について, 近畿大学健康スポーツ教育センター紀要, 2 巻 1 号, p 27-40.